

第5回 CPD WG 委員会議事録

日時：2月13日（水） 10:00～12:00

場所：日本工学会事務所

出席者（順不同、敬称略）：

主査 大輪武司（芝浦工業大学 理事）
委員 片桐雅明（株式会社日建設計シビル 地盤調査設計部門 技術長）
木村軍司（首都大学東京 名誉教授、電気分野）
永田一良（日立製作所研究開発本部 技術主管、日本技術士会）
中村暢文（東京農工大学大学院共生化学研究部 教授、化学部門）
山本 誠（東京理科大学工学部機械工学科 教授、機械分野）
事務局 柳川隆之

配布資料：

- CPD07-5-1 第4回 CPD WG 会合議事録案
- CPD07-5-2 CPD 協議会総会議事録（案）
- CPD07-5-3 CPD 協議会での覚書と標準化ガイドライン項目について（第5版）
- CPD07-5-4 ガイドラインについて（大輪主査）
- CPD07-5-5 「技術士会 CPD 時間」と「電気学会、電子情報通信学会 CPD ポイント」との比較（木村委員）
- CPD07-5-6 日本工学会 CPD 協議会での覚書と標準化ガイドライン項目について（5 改版）の修正案（永田委員）

議 事：

1. 前回議事録確認

大輪主査から、1月15日に開催された第4回 WG 会合の議事録案が説明され、修正なく確認された。

更に、2月4日に開催された協議会総会の議事の概要が議事録案に基づいて報告された。

この中で、環境システム制御学会が新たに入会したことに関連して、学協会の分野の決め方について議論が行われた。結論としては、分野の決め方は難しく、分野別協議会ができて所属が決まらない学会があることを想定しておく必要がある、ということになった。

また、両 WG の委員を兼務している永田委員から、ECE の検討状況について次のような説明が行われた。すなわち、ECE は概念の検討に続いて具体的な形を想定してその具現化を行う議論をしているところで、まだ明解な答えは出てきていない。例えば、世界一の自動車を作るときに何が必要かというふうに、目的指向の内容とすることが ECE の一つの形態となろう。

2. 標準化ガイドラインの検討

まず、大輪主査から2月4日の協議会総会に提出した標準化ガイドラインの最新版（第5版）の内容が説明された。これについて、永田委員から訂正案が示され、大輪主査がこれを参考に見直すことになった。

さらに、ガイドラインの骨子となる昨年度および一昨年度の専門委員会報告書の該当箇所が提示された。検討の結果、次のような分担で1ページくらいのガイドライン案を作成し、次回3月6日の WG 会合で検討し、3月24日の協議会総会に紹介することになった。

- 1) システムガイドライン 片桐委員
- 2) 証明書ガイドライン 山本委員
- 3) 集積ガイドライン 山本委員
- 4) 審査ガイドライン 片桐委員
- 5) 識別番号ガイドライン 昨年度の報告書をそのまま利用する。

なお、CPD の実績については、ガイドラインには当たらないので、永田委員が用意する日本技術

士会の資料を参考として最後に添付することにした。

議論の概要は次の通りであった。

- * CPD の形態区分は、電気系は日本技術士会のものと同合わせる方向である。電気学会で対応表を作ったがよく一致している。電気系では日本技術士会の新しいものを参考にして、3月末までに確定版を作る予定である。(木村)
- * 日本技術士会の方は委員会活動も入れている分だけ増えている。海外旅行でポイントを請求する例も出てきており、改訂版ではこういうものを抑える方向で考えている。(永田)
- * 覚書はガイドラインの概要がわからないと判断できない。(永田) ⇒次回の協議会総会で概要が分かるようにしたい。(大輪)
- * ガイドラインは引用した報告書の該当部分を付録として添付するとよい。(永田)
- * 審査(認定)ガイドラインはフローを示せばよい。(片桐)
- * CPD の実績は各学協会が作るものであり、参考として日本技術士会のもので示せばよいのではないか。(片桐)
- * 証明書ガイドラインは証明書そのものを示せばよい。(大輪)
- * 集積ガイドラインは報告書をもとに1枚くらいにまとめる。(大輪)
- * 審査のフローを示すと会員外から審査の要求が出てくるかもしれない。該当分野の学協会に依頼することが考えられるが、分野をまたがるものへの対応がむづかしい。工学会の中に認定を行うシステムを作っておく必要があるかもしれない。(大輪)
- * 審査認定は工学会の実務が発生する可能性があるのでよく考えてゆかないといけない。(永田) ビジネスモデル(収入源とする)を考えたが難しいという結論であった。(片桐) 当面は機関認定にせざるを得ない。(大輪)
- * リリースする前に体制を整えておく必要がある。講師未定というようなプログラムを認定できるか。(木村)
- * 識別番号など検討事項が残っているものはどう対応するか?(永田) ⇒来期以降検討することになるが、修正するとすれば少し緩める方向になる可能性がある。(大輪)
- * 学習マップ(分野とレベルのマップ)を作る必要があるのではないか。ECE WGの方にも問題提起してある。(永田) 認証の際、これがないと困ることになる。(片桐)

次回予定 3月6日(木) 10-12時 於. 日本工学会事務所

以上